

【長崎県西海市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

第二期西海市教育振興基本計画では、「2. 本市の教育を取り巻く現状と課題」における「①確かな学力」の中で、一人一人の子供に目を向けた「分かる授業」を積み重ねることが重要であること、GIGAスクール構想推進のねらいでもある「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実が必要であることを示している。

また、令和6年度に作成し、令和7年度から運用を開始する「西海市学力向上5アッププロジェクト」の中には、ICTを効果的に活用したり、教育DXを推進したりすることで、「主体的に学びに向かう子供」を育成することを明記している。

今後は、学校と保護者や地域、教育委員会が協力し、1人1台端末を始めとするICT環境の充実させることにより、目指す学びの姿を実現していくようにする。

2. GIGA第1期の総括

本市では、GIGA第1期（令和2～5年度）に、次のような取組を進めてきた。

年度	取組
R2	◆ 児童生徒に1人1台端末を配付 ◆ GIGAスクールサポーターの派遣開始 ◆ プログラミング教材（MESH）の整備 ◆ 教師用のデジタル教科書を整備 ◆ 高速通信回線（光回線）の整備（～R3）
R3	◆ AIドリルの使用開始 ◆ 1人1台端末の持ち帰り開始 ◆ フィルタリング機能の整備 ◆ コロナ対策としてオンライン授業開始 ◆ GIGAスクール研究指定校の配置 ◆ 統合型校務支援システム（C4th）の運用開始
R4	◆ 研究指定校の研究発表会開催（西彼北小・大崎中） ◆ インターネット回線増設工事実施 ◆ Wi-Fi内蔵型電子黒板設置（小:73台、中:27台） ◆ 公立学校情報化ランキングで県内第2位に選出
R5	◆ メタバースを活用した放課後オンライン学習会開始 ◆ 西海市メタバーススクールの開校

<ul style="list-style-type: none"> ◆長崎総合科学大学と「教育 DX」の連携協定締結 ◆教育 DX 推進自治体表彰受賞 ◆公立学校情報化ランキングで県内第 1 位に選出
--

また、第Ⅱ期についても、すでに次のような取組を実施・計画しているところである。

年度	取組
R 6	<ul style="list-style-type: none"> ◆大串小「教育 DX」中間発表会の開催（市長視察） ◆第 7 回日本 ICT 教育アワード審査委員会特別賞受賞
R 7	<ul style="list-style-type: none"> ◆GIGA・教育 DX の「レベルアッププロジェクト」開始 ◆端末更新に向けた準備 ◆大串小「教育 DX」の研究発表会開催

(1) 成果

- AI ドリルや授業支援アプリ等、授業や家庭学習で活用できるアプリを整備した。
- 研究指定校による先進的な取組を市内の小・中学校と共有することができた。
- 「メタバースを活用した放課後オンライン学習会」など、他の自治体では見られないような特色ある取組に挑戦した。

(2) 課題と改善策

- AI ドリルや授業支援アプリの活用、端末の持ち帰りにおいて、学校差や個人差が大きくなっている。
→希望参加型研修会を開催し、「必要な人に、必要な研修を、必要なだけ届ける」ことができるようにする。
- 授業改善の取組とともに、業務改善の取組を全市的に推進していく必要がある。
→統合型校務支援システムの効果的な活用や 1 人 1 台端末の校務への活用については、まだまだ改善の余地がある。今後、研修会を開催したり、効果的な活用法を示したりすることで、全市的な取組を推進していくようにする。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末の積極的な利活用については、令和 7 年度から運用を開始する「西海市学力向上 5 アッププロジェクト」の取組として位置づけていく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

- ・ これまでも各学校においては、授業改善や業務改善を進める際に、1人1台端末を積極的に利活用しながら取組を進めてきた。今後は、GIGAスクールサポーターの効果的な活用や継続的なネットワークアセスメントを行うことで、児童生徒が快適なICT環境で学習することができるようにしていく。
- ・ 教職員の積極的な端末活用を推進していくためには、個々の教職員のスキルアップが欠かせない。今後は、「西海市学力向上5アッププロジェクト」の中に、「教職員のスキルアップ」の取組を位置付け、ニーズに応じた研修会等を開催していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

- ・ 端末を効果的に活用することで、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現することができるようにする。ただし、端末を活用することが目的とならないように、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを目指していく。
- ・ 研究指定校については、端末を効果的に活用した「単元内自由進度学習」の在り方についても研究を深め、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた先進的な取組に挑戦していく。

(3) 学びの保障

- ・ 令和5年度から設置している「西海市メタバーススクール」を活用することで、不登校児の学びの保障につながる取組を計画、実施していく。また、地理的に厳しい条件にある本市の児童生徒に対し、放課後も充実した学びの場を提供するために、「メタバースを活用した放課後オンライン学習会」を開催する。
- ・ 個に応じた学びを保障するために、AIドリルを活用する際は、自分の理解度に応じた課題を選択することができるようにすることで、すべての児童生徒が主体的に学びに向かうことができるようにしていく。
- ・ 外国人児童生徒への学習支援およびコミュニケーション支援を充実させるために翻訳機能や音声読み上げ機能の活用を図る。
- ・ 不登校児童生徒等、対面での相談が困難な児童生徒に対し、端末を活用したチャットやアンケートによる教育相談の機会の提供を図る。

なお、端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童・生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持するとともに、更なる活用の推進を目指していく。